

科目名	論理学	単位数	1	時間数	30
担当教員	外部講師	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	看護師は医師と患者の間において、適切に情報を把握・判断・伝達する責務もある。そのためには論証力や文章作成力が必要であるが、本科目はこれらの力を、一冊のテキストを熟読・分析・筆写することを通して養成しようとするものである。また小論を書くことも行う。				
学習目標	スラッシュリーディングと筆写を実践して、論証力と文章作成力を養成し、小論も書く。				
授業計画	学習目標	授業方法	時間	担当	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに／看護と文体／わかりやすく簡潔な表現 2. 段落の内部構造 3. 段落の立て方と連結 4. 事実と意見／論理と論証 5. 自然な正しい表現 6. 読みやすさへの配慮 7. 発表する 8. 課題／補足 	講義	2 H 2 H 2 H 6 H 6 H 2 H 4 H 6 H	外部講師	
評価方法	課題のレポート				
テキスト	「看護師のための文章表現ノート」 井部俊子 著 (日本看護協会出版会)				
参考文献	「自然言語の論理とその存在論」 石本新 金井範夫 他 著 (多賀出版)				

科目名	生物学	単位数	1	時間数	30
担当教員	外部講師	実務経験	有	履修年次	1
科目の概要	生物学上の基礎的な事項に触れながら、生物の基本である細胞や遺伝情報、代謝活動、そして個体発生／調節の仕組みを理解する。				
学習目標	人間の生物的存在を理解するため、基礎的科学としての生命体の仕組みを学ぶ。				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 生命とは？ 1) 生命観とその変遷 2) 生命と生物学	講義	1.5H	外部講師	
	2. 生命体のつくりとはたらき 1) 細胞とその構造 2) 細胞成分と物質輸送	講義 小テスト①②	3.5H		
	3. 生体維持のエネルギー 1) 生体内の化学反応と自由エネルギー 2) 酵素とのはたらき 3) ATPの生合成と代謝	講義 小テスト③④	4.5H		
	4. 細胞の増殖とからだの成り立ち 1) 細胞分裂と細胞周期 2) 細胞分化と組織・器官形成	講義 小テスト⑤	3H		
	5. 遺伝情報とその伝達・発現のしくみ 1) 遺伝の法則と染色体 2) DNAと複製 3) RNAと遺伝子発現 4) タンパク質の合成 5) 変異とヒトの遺伝	講義 小テスト⑥⑦⑧	6H		
	6. 生殖と発生 1) 無性生殖と有性生殖 2) 動物の受精と発生	講義 小テスト⑨	3H		
	7. 個体の調節 1) ホメオスタシス 2) 各器官系のはたらき 3) 免疫のしくみ 4) 神経性相関と液性相関	講義 小テスト⑩⑪	4.5H		
	8. 刺激の受容と行動 1) 神経系の電気信号と環境の受容 2) 神経細胞の情報伝達	講義 小テスト⑫	3H		
	期末試験		1H		
評価方法	期末筆記試験 70点、小テスト(12回)30点				
テキスト	統計看護学講座 基礎分野 生物学 (医学書院)				
参考文献	参考資料は適宜配布予定				

科目名	情報リテラシー	単位数	1	履修年次	30
担当教員	外部講師	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	看護に必要な情報科学について教授する。情報の定義から、情報の収集・処理・発信についてパソコンを用いた演習形式で学ぶ。				
学習目標	情報について理解し、情報の収集・処理・発信が自ら実践できることを目指す				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 情報科学概論	講義	2H	外部講師	
	2. コンピュータと情報処理				
	3. コンピュータの操作(1) OSの理解	講義・実習	27H		
	4. コンピュータの操作(2) LANの理解				
	5. ビジネス文書作成(1) 文書入力				
	6. ビジネス文書作成(2) 保存と印刷				
	7. ビジネス文書作成(3) 文書の修飾				
	8. 表計算(1) 簡単な演算				
	9. 表計算(2) グラフの作成				
	10. 表計算(3) 統計的データ解析1				
	11. 表計算(4) 統計的データ解析2				
	12. 表計算(5) データベース論				
	13. プレゼンテーション(1)				
	14. プレゼンテーション(2)				
15. プレゼンテーション(3)					
評価方法	筆記試験		1H		
テキスト	適宜資料を配布する				
参考文献	辻和男・森山英佐子 『看護のための情報学』 医学書院 太田勝正・前田樹海 『エッセンシャル看護情報学第2版』 医歯薬出版				

科目名	生命倫理	単位数	1	時間数	30
担当教員	外部講師(看護師)	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	看護には、対象の立場にたった、倫理に基づいた看護実践が求められる。そのような実践ができるためには倫理とは何かを知る必要がある。倫理学の基本的な考え方、生命倫理、医療倫理、看護倫理、守秘義務やプライバシーについて知り、倫理的な問題への実践的なアプローチを様々な事例を用いて学習する				
学習目標	1. 医療に関する生命倫理の課題について、自分の意見を述べる 2. 看護現場での倫理的な問題の特徴を理解し、看護師として求められる倫理的配慮・行動を考える 3. 臨床倫理事例について意思決定支援の方法を知る				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	【1回】倫理とは 【2回】倫理学の理論・対話のための理論 【3回】生命倫理とは 【4～6回】生命倫理に関する様々な問題の共有 生殖医療・臓器移植・虐待・認知症・ジェンダー・ゲノム医療などを調べ学習と共有 【7～9回】看護倫理とは、良い看護とは何 専門職の倫理看護職の責務・看護倫理に関する重要な言葉の意味 1) インフォームドコンセント、2) パターナリズム、3) 共感、4) 個人の権利・尊厳 5) アドボカシー、6) 専門職・協働 7) 情報・守秘義務、8) ACP・DNAR など 【10～12回】哲学とは・哲学カフェ 【13回】臨床倫理とその事例検討の方法 【14回】全体のまとめ、ゲストスピーカーからの話 【15回】試験	講義 演習	30H	外部講師	
評価方法	レポートなど、授業への参加状況 (GW・発表内容)				
テキスト	「看護倫理」南江堂 *医学書院「看護倫理」一部				
参考文献	「臨床倫理の考え方と実践」「医療・ケア従事者のための哲学・倫理学・死生学」 臨床倫理ネットワーク日本の動画講義 看護者の倫理綱領				

科目名	教育学	単位数	1	時間数	30		
担当教員	外部講師	実務経験	有	履修年次	2年		
科目の概要	<p>教育は「生きる力」の育成にかかわる営みであり、生涯を通しての営みでもあります。本授業では主として義務教育に焦点を当て、子どもへの接し方や相手理解などの具体的に迫ります。この学びを通して、今の「自分のありよう」を見つめ直したり「人へのまなざし」を看護にも生かしたりしようとする動機付けとなるような教育学を目指します。</p>						
学習目標	<p>各自の教育観を見つめ直し、講義や授業参観を通して共感的理解と信頼関係構築の重要性を実感したり経験したりして「私の教育論」をレポートにまとめる。</p>						
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当			
	1. 私の歩みと学校教育 2. よい教師とは	講義 グループディスカッション	4H	外部 講師			
	3. 義務教育と学習指導要領 4. 日本の社会と教育	講義	4H				
	5. 信頼関係の構築と指導の基本 1) 人は見た目が9割 2) スクールコーチングの実際	講義 視聴覚教材 ペア学習	6H				
	6. 子供理解と新しい教育の方向 7. 教材研究の実際 1) 新聞紙を使ったあそびの工夫 2) 県歌「信濃の国」から学ぶ	講義 視聴覚教材 ペア学習 グループ活動	6H				
	8. 授業参観と事後検討会 1) 長峰中学校参観と検討会 2) 宮川小学校参観と検討会	参観 グループディスカッション	8H				
	9. 私の教育論	レポート合評会	2H				
	評価方法	レポート試験 「私の教育論」					
	テキスト	なし					
参考文献	<p>文部科学省編 『小学校学習指導要領』 『中学校学習指導要領』 河合隼雄著 『臨床教育学入門』 神谷和宏著 『スクールコーチング』 竹内一郎著 『人は見た目が9割』</p>						

科目名	文化人類学	単位数	1	時間数	15
担当教員	外部講師	実務経験	有	履修年次	2年
科目の概要	人々の生活のなかには、さまざまな習慣や行動のしかた、価値観がある。講義では、多様な習慣、行動、価値観について具体例に触れながら学び、その違いをもたらす背景を探ることで、私たちがあたりまえに思っている自分の習慣、行動、価値観について考えていく。				
学習目標	1. 多様な習慣、行動、価値観や、その背景について理解する。 2. 自分の生活と文化との関わりについて考える力を養う。				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 文化を持つ生物 生物としてのヒトの特徴と動物の文化について考える。	講義	2H	外部講師	
	2. 睡眠の文化 睡眠の文化を学び、日々の睡眠に対する自分の考え方について考察する。		2H		
	3. さまざまな生業と文化 文化人類学の学説史を学ぶ。また狩猟採集社会や農耕社会など、さまざまな環境における人々の生活を学ぶ。		2H		
	4. 医療の文化 医療に関する世界観について考察する。		2H		
評価方法	レポート課題（70%） 授業ごとの小レポート（30%）				
テキスト	担当教員がプリントを配布する				
参考文献	適宜紹介する				

科目名	心理学 I	単位数	1	時間数	30
担当教員	外部講師	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	人間の心理や行動の原理を学び、自己理解、他者理解を深める。				
学習目標	1. 心理学の基礎理論を理解する。 2. 人間の行動とその規定条件との関係を理解する。 3. 人間の行動とその根底にある認知を理解する。 4. 人間と人間の関わりについて学ぶ。				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 人間の心理を理解するための基礎 (1) アイスブレイク (2) 動機付け (3) 感覚と知覚 2. 人間と人間との関わり (1) 性格 (2) 対人行動と対人相互作用 (3) 来談者中心療法 (4) 思考と意思決定 (5) リスク認知	講義 演習	28H	外部講師	
	筆記試験		2H		
評価方法	筆記試験(9割)と授業態度/提出物(1割)による				
テキスト	心理学・入門 『有斐閣アルマ』				
参考文献	情報を正しく選択するための認知バイアス事典『フォレスト出版』				

科目名	心理学Ⅱ	単位数	1	時間数	30
担当教員	外部講師	実務経験	有	履修年次	2年
科目の概要	人間の認知について学び、自己に対する理解を深める。				
学習目標	1. 自分について理解を深める。 2. 人間の認知について理解する。 3. 働く際に有用な心理学の理論を知り、実践する。				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	(1) 記憶 (2) 発達心理学(青年期) (3) 心理学研究法 (4) 認知的不協和 (5) 認知バイアス (6) デザイン (7) ヒューマンエラー (8) コーピング (9) ワークエンゲイジメント	講義 演習	26H	外部 講師	
	筆記試験(中間、期末の2回)		2H 2H		
評価方法	① 筆記試験 90点 ・中間試験:45点 ・期末試験:45点 ② 授業態度/提出物 10点				
テキスト	情報を正しく選択するための認知バイアス事典『フォレスト出版』 心理学・入門 『有斐閣アルマ』				
参考文献					

科目名	問題解決思考	単位数	1	時間数	20		
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年		
科目の概要	看護は対象を全人的にとらえ、健康問題の解決を図る実践活動である。自分で考え、全人的なアプローチを行うためには看護過程が必要不可欠である。また、対象に看護を行うために必要な視点は自らの健康問題の解決にも応用できる。看護過程の土台となる問題解決過程は、医学・看護学の専門知識がなくとも、日ごろ暮らすうえで活用している思考である。そのプロセスを理解することは看護過程の技術習得の助けとなる。						
学習目標	1. 問題解決思考を理解する 2. 問題解決思考を活用できる 3. 自己の振り返りができる						
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当			
	1. 問題解決思考を理解する 1) 問題解決過程とは (1) 問題に気づく (2) 問題の明確化 (3) 成果目標の立案 (4) 解決計画の立案 (5) 実施 (6) 結果・評価 2) 日常生活の中で、困った場面・問題だと思った場面を想起し、事実に沿って具体的に記述する 3) なぜ問題だと思ったのか、どのように問題だと思ったのか記述する 4) どうありたい、どのようになったらよいと考えたか記述する 5) 解決するためにどうしようと考えたか記述する	講義 個人ワーク	1H 2H	専任教員			
	2. 問題解決思考を活用できる 1) 自己の学習状況についての問題を明確化できる 2) 自己の学習状況の成果目標が設定できる 3) 自己の学習状況の解決計画が立案できる	個人ワーク グループワーク	2H 3H				
	3. 自己の振り返りができる 4) 実施・結果・評価	個人ワーク グループワーク まとめ	3H 3H 1H				
	評価	レポート	1H				
	評価方法	レポート					
テキスト							
参考文献	基礎看護技術 I 「医学書院」						

科目名	地域交流 I	単位数	1	時間数	15
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	<p>看護の対象はあらゆる発達段階や健康レベルにある人とその家族である。地域で暮らす人々の生活を知り、看護学生としてできる活動を行うことは、地域住民に看護の心を伝えることに匹敵する。</p> <p>地域住民に役立つ看護活動を行うためには地域住民の情報を得ること、必要な活動を計画すること、実施状況・対象の反応から結果を評価することが必要である。主体となる2年生の計画に参画することにより、必要な要素を学び、次年度の修正運営につなげる。</p>				
学習目標	<p>1. 地域の現状を知る</p> <p>2. 地域から看護職が求められる役割を知る</p> <p>3. 実施・結果から次年度に向けた改善点を考えられる</p>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 地域の現状を知る 2. 地域から看護職が求められる役割を知る 1) 科目の趣旨を理解する 2) 計画を立てる	講義・個人ワーク	1H	専任教員	
	3) 看護の日の目的を理解し、企画・運営・振り返りに参画する。次年度に向けた改善点を考えられる。		6H	各担当教員	
	4) 文化祭の目的を理解し、企画・運営・振り返りに参画する。次年度に向けた改善点を考えられる。		6H		
5) 看護学生に求められるボランティアの目的を理解し、企画・運営に参加する * PCU、信濃医療福祉センター、諏訪中央病院病棟、茅野市子ども祭り、八ヶ岳寮祭、ふれあいの里、諏訪中央病院病院祭、茅野市子ども食堂などの依頼を受けて、事前に参加計画書を提出する。 * 依頼がない場合は、諏訪中央病院グループに貢献できる奉仕活動を計画する。	フィールドワーク	2H	専任教員		
評価方法	<p>レポート</p> <p>3) 40点 4) 40点 5) 20点</p>				
テキスト					
参考文献					

科目名	地域交流Ⅱ	単位数	1	時間数	30
担当教員	専任教員	実務経験	有	履修年次	2年
科目の概要	<p>社会の高齢化、医療の高度化・専門化に伴い看護職の需要は増大しており、地域における看護職の確保、定着は大きな問題となっている。看護学生は、卒業後に様々な現場で活躍していくが、どんな現場においても地域ネットワークの中で看護職として他職種と連携しながら地域に貢献していく必要がある。その必要性、役割などを学生時代から考えていく。地域交流Ⅰでの経験を使って地域交流の企画・運営を行う。</p>				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の現状を理解できる。 2. 地域から看護職が求められる役割を知る。 3. 地域交流の企画・運営を行う。 4. 学年の垣根を超えての交流ができる。 				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. オリエンテーション	講義	1H	専任教員 各担当 教員	
	2. 看護の日の目的を理解し、企画・運営ができる ・ 企画の立案 ・ 運営ができる ・ 振り返り、次年度の提案	グループワーク 係会活動 事後係会	6H 4H 1H		
	3. 文化祭の目的を理解し、企画・運営を行う ・ 企画の立案 ・ 運営ができる ・ 振り返り、次年度の提案	グループワーク 係会活動 事後係会	9H 4H 1H		
	4. 看護学生に求められるボランティアの目的を理解し、企画・運営に参加する ・ ボランティア参加計画 ・ ボランティア参加 ・ 振り返り	ボランティア活動	4H		
評価方法	2～4に関してレポート 2:30点 3:40点 4:30点				
テキスト					
参考文献					

科目名	医療英会話	単位数	1	時間数	30
担当教員	外部講師	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	国際化していく社会の中で、英語が理解できる力をつける。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の英会話ができる 2. 臨床場面での英会話理解ができる 3. 看護に関する英語の文献が読める素地ができる 				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英会話の基本的な表現と文法の習得 2. 頻出する定型フレーズの活用 3. 看護・医療現場での単語の習得 基本的な挨拶、外来での会話、入院時の会話などシーンを別に学習をすすめる 	講義 グループ ペアワーク	28H	外部講師	
評価方法	スピーキング試験 筆記試験			2H	AtoZ
テキスト	クリスティーンのやさしい看護英会話				
参考文献					

科目名	英文読解	単位数	1	時間数	15
担当教員	外部講師	実務経験	有	履修年次	2年
科目の概要	医療現場の実態を英語の文献から読み解けるようになるための力を養う。				
学習目標	1. 看護に関する英語の簡文献が読める				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 簡単なトピックの英語を読むために必要な基礎単語や文法を理解する 2. 文章の構成を理解する 3. 簡単な英文の文章の大意をつかみ要約できる 	講義	14H	外部講師	
評価方法	筆記試験			1H	
テキスト	Better Health for Every Day				
参考文献					

科目名	保健体育	単位数	1	時間数	30
担当教員	外部講師	実務経験	有	履修年次	1年
科目の概要	運動による身体への影響について理解し、健康な心身を育成する				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動のメカニズムがわかる 2. 運動を通して公正・協力・責任などの態度を身につける 3. 協調性や連帯感を学ぶ 4. 自己の体力の増強をはかる 5. スポーツの楽しさを味わう 				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	バレーボール（ソフトバレーを含む）	実技	10H	外部講師	
	バスケットボール	実技	10H		
	バドミントン・卓球（選択）	実技	4H		
	アウトドア・チームビルディングワーク	実技	4H		
	試験	実技・課題提出	2H		
評価方法	実技試験 授業態度 関心など				
テキスト	なし				
参考文献	なし				